

## 「未来に伝える朝日町の歴史的建造物」 現地見学会対象の建造物②

### ⑥ 若宮寺鐘楼 町指定有形文化財（昭和45年指定）

若宮寺二十世盛恬（せいてん）法印が天保14年（1843）に洪鐘と鐘楼の再建を開始し、嘉永3年（1850）に完成したものです。棟梁は左沢の菅野辰吉で、堂の姿・構造が美しく、特に木鼻（きばな）・鬼板等の彫刻は優れており、江戸時代末期における寺院建築の代表的な建造物です。平成10年には屋根を銅板葺きにしており、基壇（きだん）も修復されています。



### ⑦ 旧西五百川小学校三申分校 県指定有形文化財（平成25年指定）

朝日町中心部を見下ろす高台に立つ木造三階建校舎で、明治15年（1882）に三餘（さんよ）学校として建築され、平成8年（1996）まで分校の校舎として使われていました。白漆喰（しっくい）の壁に丸窓や木瓜（もっこう）型窓を配した姿が特徴的で、学校建築はもとより明治初期の建築としても珍しいもので、とても貴重な建造物です。



### ⑧ 水口十一面観音堂 町指定有形文化財（昭和62年指定）

元文5年（1740）に建てられた、木造、平屋建、方三間、方形造、茅葺（かやぶき）の観音堂です。四方に高欄（こうらん）付の縁があり、前面に一間の向拝（こうはい）が付いており梁（はり）や木鼻の彫刻には江戸時代中期の様式が見られます。内部の来迎柱（らいごうばしら）や柱上組物は本堂より一段古式で、旧建築材の転用とみられます。五百川三十三観音の一番札所になっています。



### ⑨ 佐竹家住宅 国指定重要文化財（昭和44年指定）

最上川を望む高台にある寄棟造（よせむねづくり）で茅葺（かやぶき）の内陸部における上層農家の建物です。江戸時代、庄内松山藩の飛地左沢領一石榑（いちこくなら）組の大庄屋をつとめた佐竹長右衛門家が、米沢藩から最上川舟運の通船差配役に任ぜられ、夏草に新宅（分家）を構えましたが、元文4年（1739）火災にあい焼失し、その直後に建てられたもので、保存も良く貴重な民家です。



### ⑩ J A さがえ西村山西五百川支所

昭和3年（1928）に、有限責任西五百川信用購買販売利用組合創立20周年記念事業として建てられた鉄筋コンクリート造りの建物で、当時としては鉄筋コンクリートの組合事務所は全国的にも珍しかったそうです。現在でも同じ機能のJ A さがえ西村山の西五百川支所として活用されています。昭和50年（1975）頃に開口部の取り替え、外壁・内壁の修復が行なわれていますが、ほとんど竣工時のままの状態が残されています。外壁上部のレリーフなど、全体的にアール・デコ調のデザインとなっており、内部も丸いステンドグラスなど洋風の装飾が見られます。

